

# 「山田錦」後半に期待

新潟の栽培会 検査目合わせで手応え

新潟山田錦栽培会は、

2015年産「山田錦」



「山田錦」の整粒などを分析する農産物検査員

の検査目合わせ会を長岡

市で行った。日本穀物検

定協会をはじめ、民間、

J Aの農産物検査員10人

ら参加した。作付面積が

増えている酒造好適米

「山田錦」の玄米の等級

格付けと品質を確認。目

標の1等米以上、整粒65

%以上を目指して検査に

備えた。

目合わせ会は、サンプル

ル玄米10点を対象に行っ

た。目視で整粒や等級を

予測してから、一粒ずつ

整粒を区分。心白や胴割

れ、未熟などの被害粒の

状況、千粒重や穀粒選別

機の機械測定の結果を加

えて総合判定した。

全量2等だったが、1

等に近いものも多く、今

後に期待が持てる内容だ

った。同協会の坂井三栄

と話す。

15年産「山田錦」の栽

培面積は約130畝で、

前年産の2・6倍に達し

た。面積拡大は、これま

で技術的に栽培が難しい

とされてきたものの、近

年になって温暖化対策な

どの技術が高まってきた

ことが背景にある。栽培

会の岩淵忠男会長は「土

質や気候などの地域差は

さんは「8月後半の日照不足で厚みが不十分だったが、胴割れ粒の発生はない。後半に刈り取った米の品質に期待したい」と話す。

あるが、実需者が求める新潟産山田錦の安定生産に向けて研究を進めていきたい」と意気込んでいた。